テアリ、ソノ活動對象ハ倶楽部精神以外ニ何者モ無カツタコトガ雄辯ニ之ヲ物語ツテヰル。

2 倶楽部ハカクノ如ク一部ノ左翼小黨派ノ執拗ナル非難攻撃ノ中ニ生レタノデアルガ、其後ノ活動ニハ目覺シキモノガアル。即チ組織ノ方面ニ於テハ同年十一月十八日開催ノ第二回懇談會ニ於テ全國勞働組合同盟ヲ、十二月十五日開催ノ第三回懇談會ニ於テ日本鐵道勞働聯合組合會ノ新加盟ヲ承認シ茲ニ總テ本倶楽部ノ陣容ハ我國全組織勞働者三十五萬人ノ七割四分二十六萬人ヲ包容スル事トナツタ。

一方事業方面ニ於テハ八月二十七日開催サレタル第一回評議會ニ於テ自主的勞働組合法、團体協約法ノ調査立案、失業問題、勞働時間、最低賃金等根本的勞働問題解決策ヲ研究審査スルコトヲ決定シ、夫レゝ調査主査ヲ任命シ、ソノ中勞働組合、團体協約ノ二法案ヲ立案シ、政府ニ提出スル其ノ趣旨貫徹ニ關ス

ル運動ニ就テハ昭和七年一月十七日開催ノ第四回懇談會ニテ決定セル政治委員ニ一任スル事トナツタ。[illegible]

3 國際勞働總會ニ出席スベキ勞働代表及顧問ノ選定ニツイテハ、今回イヨ々々國際勞働總會ヲ根本的ニ否認スル一部ノ左翼的勞働團体ヲ除ク他ノ全部ノ團体ニヨツテ日本勞働倶楽部ガ創立サレタ以上同倶楽部ニ於テ其ノ選定ヲ爲スノガ至當ナリトノ見地ヨリ、昭和六年十二月十五日開催ノ第三回懇談會ハ特ニ小委員會ヲ選定シ、ソノ人選ヲ詮衡シタル結果、勞働代表委員候補者ニ西尾末廣氏、同顧問候補者ニ吉川利吉氏、丹羽市太郎氏ヲ選定シタ。四月五日開催サレタル第五回懇談會ニ於テ、日本勞働[illegible]

4 無産政黨又ハ政治運動ト本倶楽部トノ關係ニ就テハ、本倶楽部ノ指導精神ガ勞働組合主義ニ在ル以上、選擧運動等ニツイテモ本倶楽部トシテコレヲ應援乃至ハ干渉スル事ハ勿論コレヲ避クベキデアルガ、本倶楽部加盟各團体ノ幹部ガ同一選擧區ニ於テ